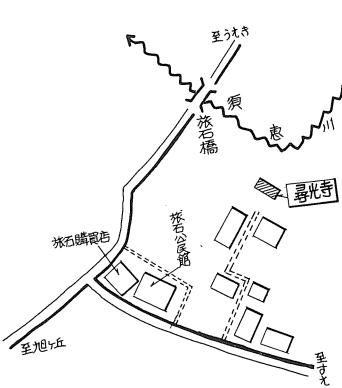




十七番札所海藏寺(旅石)
の十一面觀音座像



は、十一面觀世音菩薩の
座像です（高さは約三
十cm）。町内には旅石
のほかにも、三番が
佐谷建正寺、十九番
が本合栄泉寺（乙植
木の林松寺境内）と
つごう三ヵ所の札所
があります。

何はともあれ、手
がかりをもとめて、
“お觀音さま”をた

旅石に、むかし海藏寺というお寺がありました。このことは江戸時代に書かれた『筑前国続風土記拾遺』という本の「旅石村」の項に、「承天寺の廢寺簿に柏屋郡旅石村に末寺海藏寺有」と記されていることから初めてわかつたことでした。同じく承天寺（福岡市博多区）の末寺である道林寺は今も植木に健在ですが、旅石には海藏寺の跡形も

なく、地名としても見つけることはできませんでした。土地の人たずねても海藏寺という寺の名を聞いたことはないとのこ

とでました。

考へてみるとそれも当然かもと記されています。江戸時代ですら廃寺（すたれた寺）とされているほどですから、それから二百年も三百年もたつた現在、その跡

が残つていなくて当たりまえ

とされません。江戸時代では昔話を語り合う会があつたのでありますが、その席で、ひとりのおばあさんがこんな話をしてくれました。

旅石老人クラブの人々が集まつて昔話を語り合う会があつたのである日、耳よりの話を聞きました。旅石老人クラブの人々が集まつて昔話を語り合う会があつたのである日、耳よりの話を聞きました。

海藏寺も当然禅宗のはずです。旅石に住む人のほかには“お觀音さま”はあまり知られていないようですが、柏屋郡（実際は旧表柏屋郡）の三十三ヵ所観音靈場の第十七番札所にあたつています。ここのお觀音像

は、十一面觀世音菩薩の座像です（高さは約三十五cm）。町内には旅石のほかにも、三番が佐谷建正寺、十九番が本合栄泉寺（乙植木の林松寺境内）とつごう三ヵ所の札所があります。

旅石の廃寺

海藏寺をたずねて（上）

旅石のお觀音さまは、昔は「貝藏」という地名があるのでこちらの方か、とも考えました。また、『拾遺』には、旅石の石経と塚本という場所が海藏寺の跡ではないか、との推測が記されています。

このおばあさんは寺の名はござんじなかつたのですが、私は“お觀音さま”こそ海藏寺にまざして、機会あるごとに海藏寺の記憶をたずねていた私は、ある日、耳よりの話を聞きました。旅石老人クラブの人々が集まつて昔話を語り合う会があつたのである日、耳よりの話を聞きました。承天寺が禪宗なので、その末寺海藏寺も当然禅宗のはずです。

旅石に住む人のほかには“お觀音さま”はあまり知られていないようですが、柏屋郡（実際は旧表柏屋郡）の三十三ヵ所観音靈場の第十七番札所にあたつています。ここのお觀音像

は和尚さんに海藏寺のことをたずねたところ、三十三觀音の巡礼案内図を持ってこられ、この図に第十七番札所は、「旅石、海藏寺」と記されていました。海藏寺はやはりここででした。

前で道を折れてしまふと左の路地に入ると「第十七番札所、尋光寺」の札が見えます。地元の人々は“お觀音さま”と呼んでいますが、今は尋光寺の案内札が立っています。境内には十三仏やその他の石仏が安置されています。中に、「旅石、横峯寺」の石仏があるのは、篠栗町の同名の旅石からまぎれこんだものと思われます。寺内に居住する和尚さんの話では、老人クラブや地域の人々と、毎月二十日に觀音さまをおまつりしているとのことです。

（以下次号）

町史のひとこま

（第十一回）

旅石のお觀音さまは、昔は「貝藏」という地名があるのでこちらの方か、とも考えました。また、『拾遺』には、旅石の石経と塚本という場所が海藏寺の跡ではないか、との推測が記されています。

このおばあさんは寺の名はござんじなかつたのですが、私は“お觀音さま”こそ海藏寺にまざして、機会あるごとに海藏寺の記憶をたずねていた私は、ある日、耳よりの話を聞きました。旅石老人クラブの人々が集まつて昔話を語り合う会があつたのである日、耳よりの話を聞きました。承天寺が禪宗なので、その末寺海藏寺も当然禅宗のはずです。

旅石に住む人のほかには“お觀音さま”はあまり知られていないようですが、柏屋郡（実際は旧表柏屋郡）の三十三ヵ所観音靈場の第十七番札所にあたつています。ここのお觀音像

は和尚さんに海藏寺のことをたずねたところ、三十三觀音の巡礼案内図を持ってこられ、この図に第十七番札所は、「旅石、海藏寺」と記されていました。海藏寺はやはりここででした。

（以下次号）